## 4)標識放流調査等から考えられるホンモロコ増殖のありかた

根本守仁・藤原公一・臼杵崇広・山中　治・的場　洋

【背景】ここ数年のホンモロコの漁獲量は減少傾向にある。このため、より効果的な増殖手法を実施する必要がある。

【目的】ホンモロコの効果的な増殖技術を検討するため、標識魚の放流・再捕調査を行った。

【成果概要】1.95年に長命寺湾内の砂岩浜(岡山地先)、ヨシ群落中央(牧地先)、および湾中央(水深5.7m)に、相互識別可能な標識孵化仔魚をそれぞれ448千尾、548千尾、および2,127千尾放流した(図1)。そして、約2カ月後湾内一円で小型底曳網による再捕調査を行ったところ、稚魚が355尾採集され、その内再捕された標識魚は砂岩浜に放流したものが4尾(混獲率1.13%、再捕率0.000892%)のみであった。

2.南湖の北山田の人工湖岸から、96年4～6月に標識孵化仔魚8,559千尾、96年8月には稚魚236千尾放流した。そして、放流開始から約1カ月後に放流地点前面の水域で小型底曳網を行ったところ、標識魚が20尾(混獲率76.9%)再捕され、生存していることが確認された。しかし、主に7月の南湖一円でエリと小型底曳網による再捕調査では、採集魚6,593尾中、標識魚は対岸で採集された1尾のみであった。また、9～1月には全湖での刺し網および沖曳網で漁獲された2,292尾について再捕調査を行ったが、標識魚は稚魚で放流したもの１尾のみであった(表1)。

3.長命寺湾内および南湖一円での小型底曳網による再捕調査を行ったときに稚魚が多数採集された水域は、水深5m以浅の浅水域であった(図2、3)。

【成果の活用】本種は1尾当たりの価格がニゴロブナに比べて著しく安いことおよび以上の調査結果から、本種の増殖手段は種苗放流によるよりも、天然の再生産の助長が有効であると思われる。また、増殖場の造成は、概ね5m以浅の浅水域を背後に持つ沿岸帯に行うことが必要であると思われる。

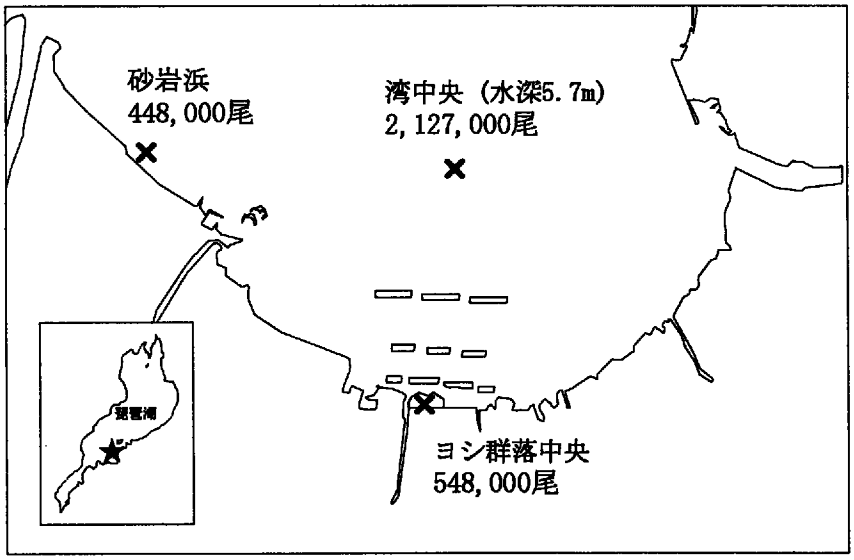


図1　95年度ホンモロコ孵化仔魚放流水域条件調査の
放流水域および放流尾数

表1　ホンモロコ標識魚調査結果

| 漁法 | 調査尾数 | 標識魚再捕尾数 | |
|---|---|---|---|
| | | 稚魚 | 孵化仔魚 |
| 沖曳網 | 1, 050 | 0 | 0 |
| 刺網 | 1, 201 | 1* | 0 |
| エリ | 41 | 0 | 0 |
| 合計 | 2, 292 | 1 | 0 |

＊　96/09/10に矢橋地先で再捕

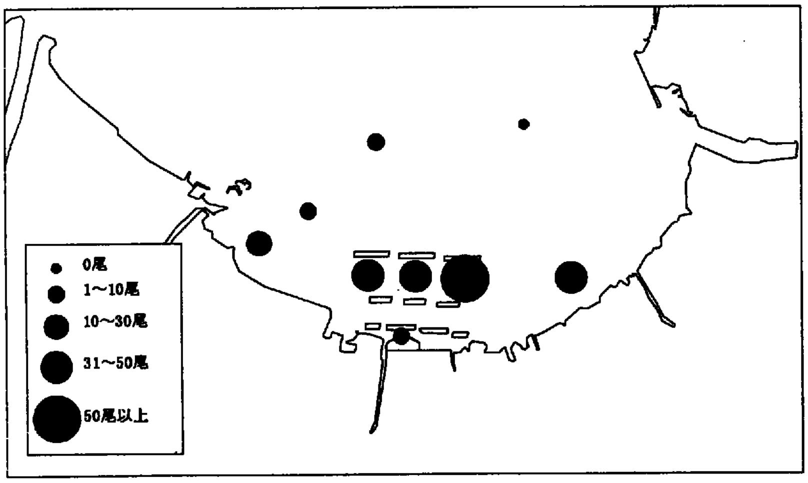


図2　95年度長命寺湾内における小型底曳網による
ホンモロコ稚魚採集結果

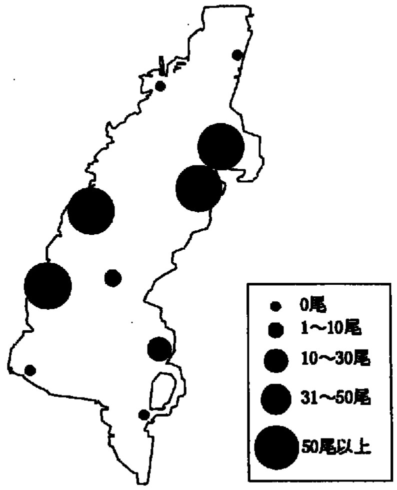


図3　96年度南湖における小型底曳網
によるホンモロコ稚魚採集結果